

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【令和3年12月】

■調査概要（データ対象期間：令和3年12月1日～12月31日）

○調査期間：令和3年12月24日～令和4年1月19日

○調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査

○回収状況：建設業18企業、製造業20企業、卸売業12企業、小売業22企業

飲食業18企業、サービス業40企業（運輸、不動産仲介業を含む）

<合計130企業>

○調査項目：12月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価

状況向こう3ヵ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI(Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準と

して、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下

向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示す

ものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DI、水準DI共にマイナス幅の拡大

1. 業況判断

○全産業合計の業況DI(前年同月比ベース)は、前月(▲1.5)よりマイナス幅が0.9ポイント拡大し、▲2.4となった。業種別では、飲食業はプラス幅が拡大した。卸売業はプラスから0になり、小売業は0からプラスになった。製造業は0からマイナスになった。建設業はマイナス幅が縮小し、サービス業はマイナス幅が拡大した。

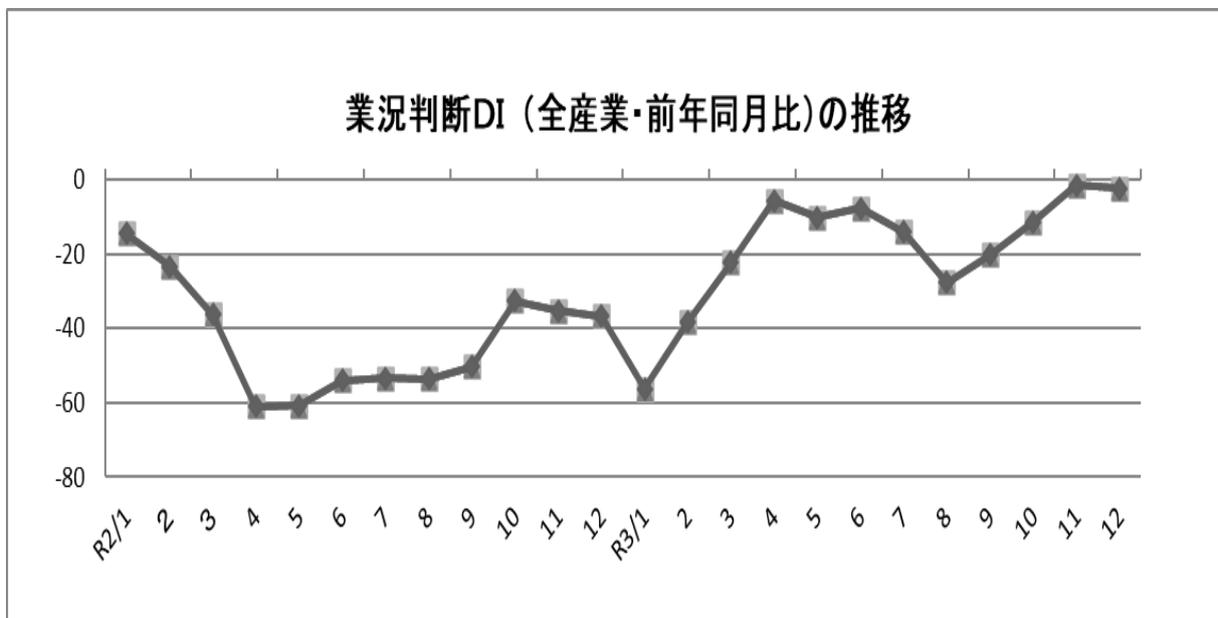
○全産業合計の水準DIは、前月(▲11.3)よりマイナス幅が5.6ポイント拡大し、▲16.9となった。業種別では、製造業、建設業は0からマイナスになり、小売業がマイナスから0になった。飲食業、卸売業、サービス業はマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	23.8 (21.1)	50.0 (56.3)	26.2 (22.6)	↘ ▲ 2.4 (▲ 1.5)	15.4 (18.8)	52.3 (51.1)	32.3 (30.1)	↘ ▲ 16.9 (▲ 11.3)
建設業	0.0 (5.3)	94.4 (78.9)	5.6 (15.8)	↗ ▲ 5.6 (▲ 10.5)	0.0 (10.5)	83.3 (79.0)	16.7 (10.5)	↘ ▲ 16.7 (0.0)
製造業	25.0 (26.3)	30.0 (47.4)	45.0 (26.3)	↘ ▲ 20.0 (0.0)	20.0 (26.3)	55.0 (47.4)	25.0 (26.3)	↘ ▲ 5.0 (0.0)
卸売業	33.3 (36.4)	33.4 (36.3)	33.3 (27.3)	↘ 0.0 (9.1)	8.3 (18.2)	58.4 (45.4)	33.3 (36.4)	↘ ▲ 25.0 (▲ 18.2)
小売業	31.8 (26.1)	50.0 (47.8)	18.2 (26.1)	↗ 13.6 (0.0)	31.8 (26.1)	36.4 (34.8)	31.8 (39.1)	↗ 0.0 (▲ 13.0)
飲食業	44.4 (42.1)	27.8 (31.6)	27.8 (26.3)	↗ 16.6 (15.8)	16.7 (26.3)	44.4 (31.6)	38.9 (42.1)	↘ ▲ 22.2 (▲ 15.8)
サービス業	17.5 (9.5)	55.0 (71.5)	27.5 (19.0)	↘ ▲ 10.0 (▲ 9.5)	12.5 (11.9)	47.5 (59.5)	40.0 (28.6)	↘ ▲ 27.5 (▲ 16.7)

()内は前月データ

※「業況[前年同月比]」…前年同月の業況との比較による回答の集計
「今月の水準」…事業主の方の主観による回答の集計



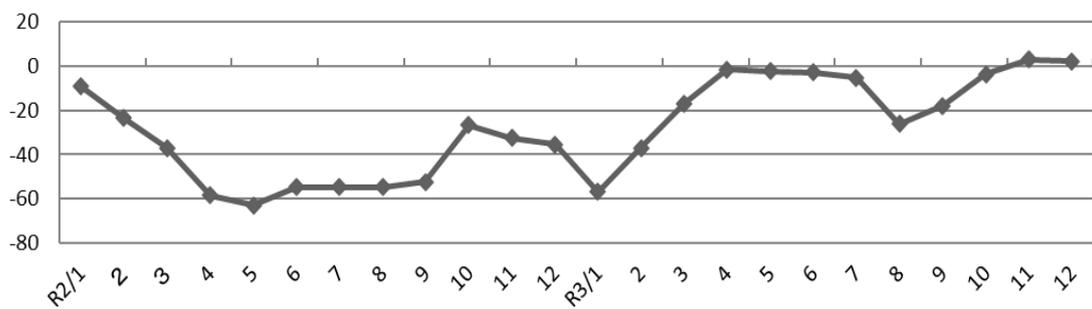
2. 売上高DI（前年同月比）

○全産業合計の売上高DIは、前月(3.0)よりプラス幅が0.7ポイント縮小して、2.3となった。業種別に見ると、飲食業はプラス幅が拡大し、卸売業、小売業はプラス幅が縮小した。建設業はプラスからマイナスに転じた。サービス業、製造業はマイナス幅が縮小した。

【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	R2年12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
全 体	▲35.4	▲57.0	▲37.0	▲16.8	▲1.4	▲2.2	▲2.9	▲5.1	▲26.1	▲17.9	▲3.5	3.0	2.3
建 設 業	▲13.6	▲47.4	▲20.0	▲30.0	▲30.0	▲33.4	▲18.2	▲26.3	▲25.0	22.2	▲4.5	15.8	▲5.5
製 造 業	▲43.5	▲68.4	▲36.3	▲27.3	▲8.7	16.7	25.0	35.0	22.7	4.6	10.0	▲5.2	▲5.0
卸 売 業	▲38.5	▲58.3	▲41.7	23.1	33.4	10.0	7.7	▲10.0	▲25.0	0.0	7.7	9.1	8.3
小 売 業	▲7.4	▲38.5	▲8.4	▲11.1	3.6	▲8.3	▲16.7	▲13.6	▲48.2	▲45.9	20.9	13.0	9.1
飲 食 業	▲87.5	▲94.4	▲81.2	▲57.9	▲18.7	▲31.3	▲10.0	▲25.0	▲82.4	▲61.1	▲17.6	5.3	16.6
サービス業	▲39.6	▲51.3	▲43.2	▲2.4	9.7	13.6	0.0	0.0	▲15.0	▲17.5	▲20.5	▲7.1	▲2.5

売上高DI（全産業・前年同月比）の推移



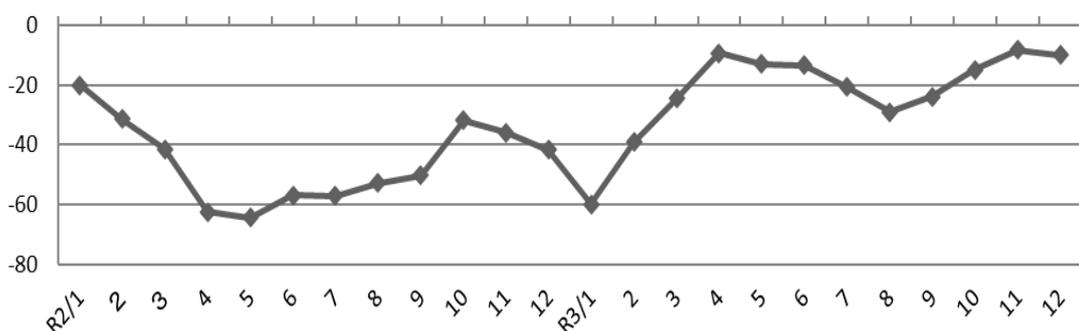
3. 営業利益DI（前年同月比）

○全産業合計の営業利益DIは、前月(▲8.3)よりマイナス幅が1.7ポイント拡大して、▲10.0となった。業種別に見ると、小売業はプラスから0になった。飲食業はマイナスからプラスに転じ、卸売業はマイナスから0になった。サービス業、製造業、建設業はマイナス幅が拡大した。

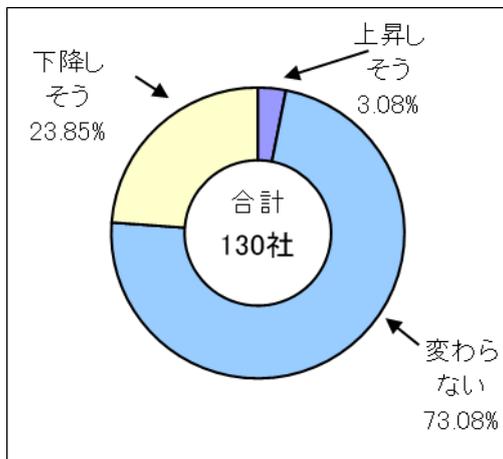
【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	R2年12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
全 体	▲41.7	▲60.0	▲39.2	▲24.5	▲9.3	▲13.0	▲13.5	▲20.8	▲29.0	▲23.9	▲15.0	▲8.3	▲10.0
建 設 業	▲31.8	▲47.4	▲30.0	▲35.0	▲40.0	▲33.3	▲18.2	▲36.8	▲30.0	5.6	▲22.7	▲5.2	▲27.8
製 造 業	▲56.5	▲73.6	▲31.8	▲31.9	▲17.4	4.2	▲5.0	5.0	4.5	▲4.5	▲20.0	▲15.7	▲35.0
卸 売 業	▲23.1	▲58.3	▲33.4	7.7	16.7	0.0	▲7.7	▲20.0	▲16.7	0.0	7.7	▲9.1	0.0
小 売 業	▲18.5	▲46.2	▲25.0	▲22.2	0.0	▲12.5	▲25.0	▲27.3	▲37.0	▲50.0	4.2	4.3	0.0
飲 食 業	▲87.5	▲94.4	▲81.2	▲52.6	▲25.0	▲43.7	▲15.0	▲35.0	▲82.4	▲66.7	▲29.4	▲21.0	16.6
サービス業	▲41.8	▲53.7	▲40.9	▲14.3	2.4	▲4.5	▲9.5	▲15.9	▲22.5	▲20.0	▲20.4	▲7.1	▲10.0

営業利益DI（全産業・前年同月比）の推移



◇ 向こう3カ月の見通し ◇

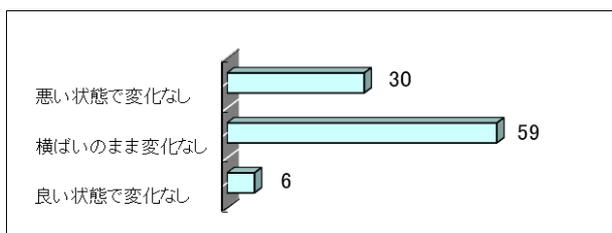


○令和4年1月～令和4年3月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ2.94ポイント減少し3.08%、「下降しそう」が6.56ポイント上昇し23.85%となった。業種別の見通しDIは建設業(▲5.5)、製造業(▲20.0)、卸売業(▲25.0)、小売業(▲27.3)、飲食業(▲33.3)、サービス業(▲17.5)であった。

➡「上昇しそう」では「災害復旧工事の発注があるため」(建設業)「繁忙期になるため」「トヨタの生産計画次第では上向きになりそうであるため」(製造業)「年末年始の新型コロナウイルス感染者数にもよるが、ワクチン接種がかなり進んできているため」(サービス業)といった声が寄せられた。

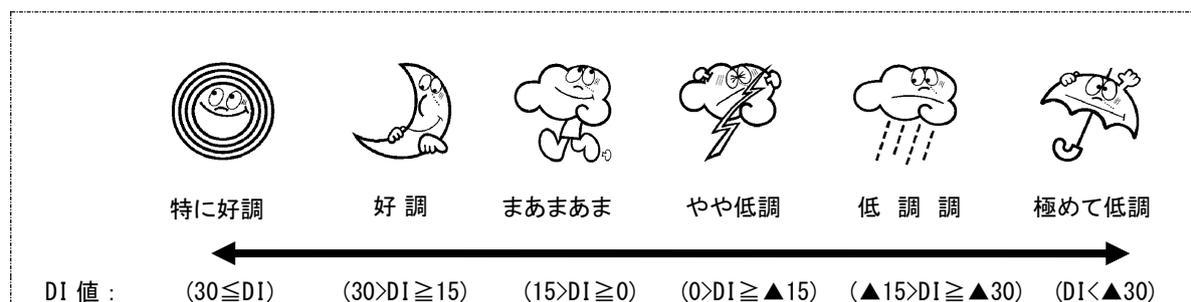
➡「変わらない」では「部品の品不足が深刻なため」(製造業)「オミクロン株の影響を受け予約が入らないため」(飲食業)「業務委託による月々の回収が見込めるため」「オミクロン株の動向にもよるが、Go Toトラベル キャンペーン事業や信州割 SPECIAL 宿泊割などにより少しは動きが出てきそうなため」(サービス業)といった声が寄せられた。

➡「下降しそう」では「経済の回復する見通しが立たないため」(製造業)「商品の値上げと生産の遅れがあるため」(卸売業)「あらゆる資材が高騰しており、品不足で景気が悪くなると考えているため」(小売業)「12月が良すぎたためその反動が来ると予想しているため」(飲食業)「求職者数減少により職業訓練応募者数が減少しているため」(サービス業)といった声が寄せられた。また「新型コロナウイルス感染症の影響があるため」「オミクロン株の影響があるため」「季節的要因があるため」といった声が多数寄せられた。



業種別景況

<DI | 君の景況判断>



1. 建設業



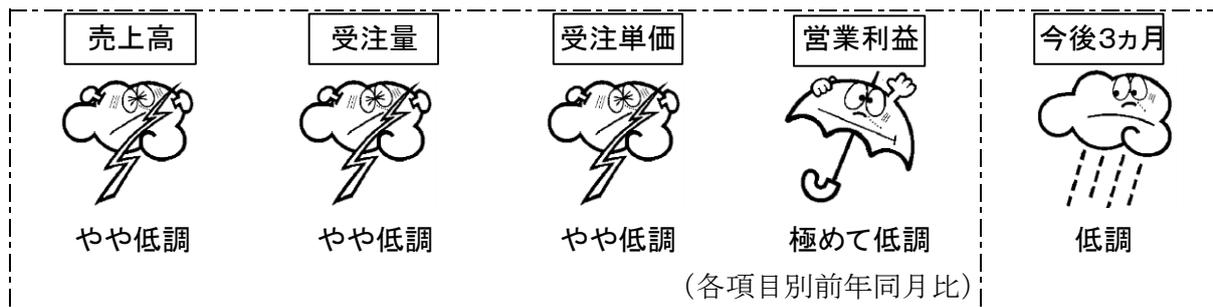
【項目別DIの推移】

	R2年12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	▲13.6	▲47.4	▲20.0	▲30.0	▲30.0	▲33.4	▲18.2	▲26.3	▲25.0	22.2	▲4.5	15.8	▲5.5
受注量	▲27.3	▲31.5	▲25.0	▲30.0	▲45.0	▲28.5	▲18.2	▲36.8	▲20.0	0.0	0.0	▲5.3	▲38.9
受注単価	▲4.5	▲15.8	▲15.0	▲20.0	▲20.0	▲19.0	▲9.1	▲15.8	▲10.0	▲5.6	▲9.1	5.3	▲11.1
営業利益	▲31.8	▲47.4	▲30.0	▲35.0	▲40.0	▲33.3	▲18.2	▲36.8	▲30.0	5.6	▲22.7	▲5.2	▲27.8
見通し	▲4.6	10.5	0.0	▲20.0	▲5.0	14.2	4.5	0.0	5.0	11.1	▲4.5	▲5.3	▲5.5

<経営者の目・見方・etc>

- 鉄工
 - ・地域の需要がなくなってきている。冬場は特に悪いため、3月以降に期待したい。
- 土木工事
 - ・建築資材の品不足がまだ続いており、今はコンパネが足らず価格も上昇し納期に遅れをとっているようである。
- 建築工事
 - ・半導体不足が設備機器の納期に影響している。
- 建設業
 - ・資材の単価が上昇しており、利益の確保が難しくなっている。
- 電気工事業
 - ・電設資材が間に合わないという状況が非常に不安である。

2. 製造業



【項目別DIの推移】

	R2年12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	▲ 43.5	▲ 68.4	▲ 36.3	▲ 27.3	▲ 8.7	16.7	25.0	35.0	22.7	4.6	10.0	▲ 5.2	▲ 5.0
受注量	▲ 56.6	▲ 57.9	▲ 31.8	▲ 13.7	▲ 8.7	8.3	25.0	25.0	9.1	4.6	10.0	▲ 5.2	▲ 10.0
受注単価	▲ 17.4	▲ 21.1	▲ 18.2	▲ 18.2	0.0	0.0	5.0	0.0	▲ 9.1	▲ 9.1	5.0	5.3	▲ 5.0
営業利益	▲ 56.5	▲ 73.6	▲ 31.8	▲ 31.9	▲ 17.4	4.2	▲ 5.0	5.0	4.5	▲ 4.5	▲ 20.0	▲ 15.7	▲ 35.0
見通し	▲ 17.4	15.8	18.2	4.5	0.0	0.0	▲ 5.0	▲ 25.0	▲ 27.3	▲ 9.1	▲ 20.0	▲ 36.8	▲ 20.0

<経営者の目・見方・etc>

- | | |
|----------|---|
| 精密機械 | ・依然として半導体や電子部品全般の不足が深刻である。この状況が近いうちに解消されるとは思えず先行きが不安である。また、オミクロン株の流行でアジア諸国が再度ロックダウンにならないか気がかりである。 |
| 精密機器組立 | ・相変わらず電子部品の入荷状況が悪い。注文残高がたまる一方で見通しも立たない。 |
| 小型情報機器組立 | ・半導体や部品の不足が深刻化しており、景気の先行きが見えない。それに加えてオミクロン株も出てきており、悪いことばかりが起きている。 |
| 金属塗装 | ・12月中は新型コロナウイルス感染症が落ち着きつつあったが、オミクロン株が急拡大しており非常に心配である。親会社の部品調達がまた停滞して当社の受注が減少することが一番困る。 |
| 印刷 | ・一時的に新型コロナウイルス感染症の感染レベルが落ち着いたこともあり、比較的通常通りの業務を進めることができたのだが、用紙代や材料費の高騰もあり、元々客単価が低く回転率も決して多くない地方印刷業界としては、財政的な改善は見られない。DXについても、印刷物の削減等による悪影響へ、行政が積極的な業界支援策を提示しているというようには見られない。ただただ縮小していくのを見過ごされていく感を行政トップに感じている。 |
| 紙器 | ・新型コロナウイルス感染症も少しずつ良くなってきているように感じるが、極端に良くなってきている様には思えない。新規の得意先も少しずつ増えてきている状況であるが、ここにきてオミクロン株が感染拡大の兆しを見せてきており非常に不安である。 |

3. 卸売業



【項目別DIの推移】

	R2年12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	▲ 38.5	▲ 58.3	▲ 41.7	23.1	33.4	10.0	7.7	▲ 10.0	▲ 25.0	0.0	7.7	9.1	8.3
販売客数	▲ 30.8	▲ 33.3	▲ 33.3	7.7	0.0	0.0	▲ 15.4	▲ 10.0	▲ 16.6	▲ 25.0	7.7	9.1	▲ 16.7
販売客単価	▲ 7.7	▲ 33.3	▲ 41.7	15.4	8.4	30.0	15.4	10.0	▲ 8.3	0.0	23.1	36.4	8.3
営業利益	▲ 23.1	▲ 58.3	▲ 33.4	7.7	16.7	0.0	▲ 7.7	▲ 20.0	▲ 16.7	0.0	7.7	▲ 9.1	0.0
見通し	▲ 23.1	8.4	25.0	7.7	▲ 16.7	▲ 10.0	▲ 7.7	▲ 30.0	▲ 16.7	16.7	7.7	▲ 9.1	▲ 25.0

<経営者の目・見方・e t c>

青果

・重量野菜の価格が低迷しており販売に苦戦している。果実については、りんご(ふじ)の入荷減が響いたが、みかんや貯蔵のシャインマスカットでカバーできた。年末年始の天候次第では年始に入荷が減る予想である。

青果卸小売業

・新型コロナウイルス感染症が落ち着いた状況で、人の出入りがあったが高齢者の動きは今までの年末とは違って普段と変わらない動きであった。

土産品

・少しずつではあるが回復傾向にあり昨年と比較すると倍以上になっている。年明け以降に期待したい。

機械工具

・工場で使用する部品不足が深刻化してきている。特に電子部品の納期は非常に長くなっている。その他の部品もメーカーの在庫がないものが増えてきており影響が広範囲に及んでいる。

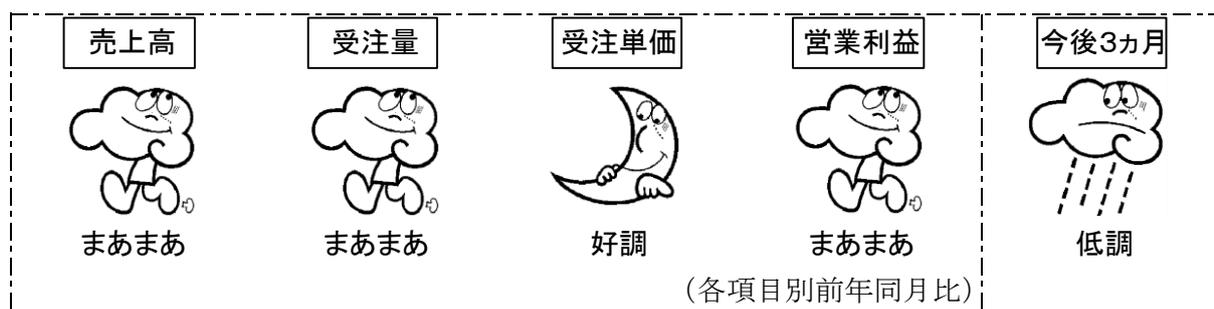
金属製品

・一時期のタイト感はないものの、各メーカーの納期は数ヶ月後ろ倒しの状態である。自動車に左右されるが、高炉メーカーは依然として強気の姿勢に変わりなく、もう一段階の値上げも起こりうる状況である。

自転車

・商品の値上げが続いている。企業努力では限界があるため、価格への転嫁を検討している。一部の商品は生産が遅れていて先行で商品手配をしても全数が入荷不明である。

4. 小売業



【項目別DIの推移】

	R2年12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	▲ 7.4	▲ 38.5	▲ 8.4	▲ 11.1	3.6	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 13.6	▲ 48.2	▲ 45.9	20.9	13.0	9.1
販売客数	▲ 29.7	▲ 53.9	▲ 20.8	▲ 18.5	▲ 10.8	▲ 4.1	▲ 20.8	▲ 13.7	▲ 44.5	▲ 50.0	8.3	13.1	0.0
販売客単価	▲ 3.7	▲ 7.7	▲ 8.3	▲ 14.8	▲ 10.7	▲ 8.4	▲ 29.2	▲ 13.7	▲ 29.6	▲ 20.9	4.2	▲ 13.1	27.3
営業利益	▲ 18.5	▲ 46.2	▲ 25.0	▲ 22.2	0.0	▲ 12.5	▲ 25.0	▲ 27.3	▲ 37.0	▲ 50.0	4.2	4.3	0.0
見通し	▲ 18.5	▲ 3.8	0.0	7.4	▲ 14.3	▲ 20.8	▲ 8.3	▲ 13.7	▲ 14.8	0.0	12.5	▲ 8.7	▲ 27.3

<経営者の目・見方・etc>

陶磁器

- ・2ヵ月以上も感染者が確認されない安心からか、年末らしく街中は地元客や観光客でにぎわいを見せた。特に週末は個人的な忘年会などで、飲食店、宿泊施設共に混雑していた。コロナ禍で空きテナントとなっていた物件にも入居の見通しがついた。多少の波はあるものの来年には社会や経済が正常化するのではないかと考えている。

印章

- ・印鑑登録数(実印として登録された印鑑の数)が20年前よりも3割ほど減っていることが分かった。実印を必要とする機会が減っている可能性がある。認印の販売数は昨年より1割減り、企業系の注文は軒並み大幅に減っている。今後もこの流れが変わらないとすれば、当業界は深刻な事態になりそうである。

住宅機器
洋菓子店

- ・各メーカーが値上がりの傾向になってきている。
- ・クリスマスの需要は多く、毎年長時間労働になるため今年は予約の台数制限を設けるところが多かった。その分当日にケーキを購入する行列がどこもできていた。クリスマスなど繁忙期のやり方や働き方を改めて考えていく必要がある。今年は去年と比べて、年末の焼菓子ギフトなどもよく売れた。人の流れも多くなっているように感じた。

和菓子
生鮮食品

- ・御遣い物の購入が大変多かった。
- ・昨年の12月はなにかも中止になり、自粛していた。今年もあまり動きがないかと思っていたが年末がとても忙しかった。

5. 飲食業

売上高	受注量	受注単価	営業利益	今後3ヵ月
				
好調	好調	まあまあ	好調	極めて低調

(各項目別前年同月比)

【項目別DIの推移】

	R2年12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	▲ 87.5	▲ 94.4	▲ 81.2	▲ 57.9	▲ 18.7	▲ 31.3	▲ 10.0	▲ 25.0	▲ 82.4	▲ 61.1	▲ 17.6	5.3	16.6
販売客数	▲ 93.8	▲ 94.4	▲ 81.2	▲ 52.6	▲ 18.7	▲ 37.5	▲ 5.0	▲ 25.0	▲ 76.5	▲ 66.7	▲ 23.5	10.5	16.6
販売客単価	▲ 75.0	▲ 66.7	▲ 81.2	▲ 31.6	▲ 37.5	▲ 56.2	▲ 20.0	▲ 15.0	▲ 52.9	▲ 44.4	▲ 29.4	▲ 10.5	5.5
営業利益	▲ 87.5	▲ 94.4	▲ 81.2	▲ 52.6	▲ 25.0	▲ 43.7	▲ 15.0	▲ 35.0	▲ 82.4	▲ 66.7	▲ 29.4	▲ 21.0	16.6
見通し	▲ 37.5	▲ 22.2	▲ 18.8	▲ 15.8	▲ 6.3	0.0	5.0	▲ 15.0	▲ 29.4	0.0	5.9	▲ 5.2	▲ 33.3

<経営者の目・見方・e t c>

料理

・お客様が例年の忘年会を開催せず、暇な12月だった。コロナ禍も原因となっているがこのまま異常な世界にならないことを祈っている。

郷土料理

・県外からの観光客も全国で新型コロナウイルス感染者が減少している状況から増えてきた。しかし、12月にも関わらず忘年会の予約が入らなかった。月の後半になってオミクロン株の国内感染が始まり、先行きがわからなくなってきている。

中華料理

・新型コロナウイルス感染症のオミクロン株による影響が懸念されるが、心が折れないことを祈っている。皆が協力し頑張ってこの状況を乗り越えていくべきである。

創作料理

・11月の中旬以降、12月の予約が動き始め、10件の予約が入った。それなりに年の瀬の活気を感じていたが、オミクロン株の影響もあり月の後半に入っていた予約は全てキャンセルとなった。当然、年末に入っていた年越し料理の仕出しも全てなくなってしまった。何か続けていくことに持ち出しばかりで耐える事にも疲弊感漂う限界の近い12月であった。回復の兆しが見え始める前に気力が尽きてしまいそうである。

そば

・少人数で行う宴会の予約が多少あり、内々の大人数の宴会も数件あり新型コロナウイルス感染者の減少が反映されているように感じる。しかしオミクロン株の感染者数が増え始めているのが心配である。

寿司

・アルコール中心の業態においても、若年層及び4人以内のお客様は大分戻ってきているが、法人の大人数で行う宴会はほとんどない状態が続く。今後もしばらくは、少人数、食事中心、テイクアウトなどが業績回復のカギとなる事が予測される。また、食材の仕入単価上昇も顕著であり、メニュー制作の見直しも必要性を感じている。

・新型コロナウイルス感染症に対する規制もなく普通に商売をすることができた。12月らしく忘年会等もそれなりにありお客さんも増えた。経済のバランスが大事だと思うが、規制がなくなり人出が多くなると来月当たりの感染者数が非常に心配である。

食堂

- ・コロナ禍以前に戻ったかのように人の出入りが上向いてきた。週末の予約や平日のランチ時の客数が増えてきている。第6波が来る前に過去二年間分のマイナスを取り戻したい。
- ・今月は松本市内で新型コロナウイルス感染者が出ておらず、人の動きも活発になり、イオンモール周辺では混雑も見られるようになり、売上も安定してきた。
- ・忘年会など大きな予約が殆どなかった。

6. サービス業



【項目別DIの推移】

	R2年12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	▲ 39.6	▲ 51.3	▲ 43.2	▲ 2.4	9.7	13.6	0.0	0.0	▲ 15.0	▲ 17.5	▲ 20.5	▲ 7.1	▲ 2.5
販売客数	▲ 34.9	▲ 56.1	▲ 43.2	▲ 11.9	9.8	2.3	0.0	▲ 6.8	▲ 22.5	▲ 17.5	▲ 27.3	▲ 14.3	▲ 10.0
販売客単価	▲ 14.0	▲ 24.4	▲ 27.2	▲ 2.4	7.3	▲ 9.1	▲ 4.8	▲ 9.1	▲ 7.5	▲ 10.0	▲ 22.8	▲ 4.8	▲ 12.5
営業利益	▲ 41.8	▲ 53.7	▲ 40.9	▲ 14.3	2.4	▲ 4.5	▲ 9.5	▲ 15.9	▲ 22.5	▲ 20.0	▲ 20.4	▲ 7.1	▲ 10.0
見通し	▲ 23.3	▲ 12.2	4.5	▲ 2.3	▲ 17.1	▲ 2.3	14.2	▲ 18.2	▲ 7.5	10.0	▲ 13.7	▲ 7.2	▲ 17.5

<経営者の目・見方・etc>

旅館

- ・10月以降徐々に客足は伸びてきているが昨年と違いGo To トラベル キャンペーン事業がなかったため、伸びはやや小さい。

温泉旅館

- ・信州割SPECIAL 宿泊割やまつもと冬割キャンペーンの補助のおかげで満足いく売上高であった。但し、1月の正月明けからは、本格的にオフシーズンに突入するのに加えて増え続けている、新型コロナウイルス感染症の第6波の影響で、少なくとも春がくるまでは厳しい状況が続いていくと思われる。まだまだ予断を許さない状況に不安が募る。

ホテル

- ・宿泊客は信州割SPECIAL 宿泊割やまつもと冬割キャンペーンなどもあり、客足が戻りつつある。宴会や会議も少しずつ戻ってきているが大人数での開催はほとんどない。
- ・忘年会自体の数が少なかった。

ホームクリーニング・リネンサプライ業

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影に常に変異株が付きまとっている。Withコロナの世の中であり続けることを認識しつつ国内生産のワクチンや治療薬に期待したい。

写真

- ・11月、12月と戻りかけていた事業内容も怪しくなってきた。新型コロナウイルス感染症の影響も出始めており、先行きが不透明である。

機械設計

- ・部品が入手しにくく、材料費が上がっている。この状況がまだ続きそうであるが、繁忙期はまだ忙しい。

測量・建設コンサルタント業

- ・オミクロン株の感染力は高いようなので心配だが、12月になり周りは少人数での忘年会を行う人が多かった。色々な物が値上がりしているが、ガソリンの高騰が痛手である。

ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ベンダー丸投げではなく、教育や採用を含めた内製に舵を切る企業特に中堅企業に見られるようになってきている。一方で、アジャイルやマイクロサービスなどの言葉に踊らされる場面があり気になる。
システムサポート	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症のオミクロン株による影響により、新規感染者が増加し経済の停滞を懸念している。
タクシー	<ul style="list-style-type: none"> 人の動きや観光客の数が前年よりは多少増えてきたようである。
ペットサービス	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症収束に伴い旅行客が増えホテルの利用がコロナ禍以前の70%まで回復した。しかし、オミクロン株の感染拡大が予想され更なる自粛ムードが懸念される。今後も店内及び社員の感染対策を徹底していく。
介護サービス	<ul style="list-style-type: none"> オミクロン株などの新型コロナウイルス感染症変異株の動きが非常に気かりである。
リラクゼーション	<ul style="list-style-type: none"> インフレで家賃や仕入れが値上がりしているのにも関わらず、コロナ禍で来客数が減り厳しい状況である。